

## Window Period ウィンドウ・ピリオド (輸血の危険性)

Window Period については数年前から血液センターでは常識になっていて、どうしたらいいかも真剣に考慮されていた。(たとえば、HIV 感染は、およそ3週間くらいだろうと考えられていた。) この場合、[感染]→[検査で発見]→[発病]→[発症]、または[感染]→[発病]→[検査で発見]→[発症]という一連の流れを考えている。

病気の原因になるもの(たとえば病原体)が体内に侵入してから症状が現れるまでの期間を潜伏期間 **Latent Period** という。赤十字血液センターは、善意の献血に頼っている。ところが、まれに **B** 型肝炎ウイルス、**C** 型肝炎ウイルス、**HIV** (いわゆるエイズウイルス) に感染していながら気づかぬうちに献血していることがある。この間にその人の血液を他人に輸血して、そのため新たな病気が発生することがある。この期間のことをウィンドウ・ピリオドと呼ぶ。**HTLV-I** (成人 **T** 細胞性白血病・リンパ腫ウイルス; 説明は別におこなう。) もそうである。

最近でいえば **BSE** がそうで、イギリスに半年以上滞在していた人の献血は禁止されている。**BSE** も人間に感染すると、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病を発病する。(原因はプリオンといわれているが、これが原因なのか、あるいは何らかの生体の反応の結果プリオンが検出されるのかはわかっていない。だから、現在では、手の打ちようがない。)

血液センターでは、当然のことながら、これらのウイルスをチェックしている。

最近、このウィンドウ・ピリオドが、**B** 型肝炎 34 日、**C** 型肝炎 23 日、**HIV** 感染が 11 日と発表された。すると、「一部の人」にパニックが発生し、血液センターの医師や職員にクレームが続々とやってくる。(筆者言う、血液センター職員の責任でもなんでもない。)

それ以前にも、献血後に慢性骨髄性白血病や急性白血病を発症したが、「知らずに」献血していた患者があり、これも使用する前には検知できなかった。しかし、追跡調査はしっかり行われていた(す

なわち、誰の血液がどの患者に輸血されたかがわかっている)。

ところが、上記ウィンドウ・ピリオドの期間には、嚴重な検査をすりぬけるのである。

不必要な輸血をしたり、「感染しているが現時点では検出できない、ということを理解できない」医師は彼らを怒鳴りつける。……これは間違っている。Window Period というのは全く検査でひっかからない期間のことをいうということは、これが**現代医学の限界**なのである。これをも否定したり非難する輩は、患者が回復不可能な状況に陥ったときに起死回生の方法がないときにも、何かあるはずだ、と喚きたてるのだろうか。それなら医師である必要がない。……そんなことよりも、無意味な輸血をしたことを反省すべきなのである。

たとえば、頭を打ってコブができるまでもごく短時間であっても、数秒、数十秒遅れて腫れてくる。この時間差 Time Lag がない事象は絶対はない、と言ってもいい。では、このウィンドウ・ピリオドは将来的には消失するか、たとえば、「**期間が短くなることはあっても、無くなることはない**」が答えである。

**時間差がある**というのは、ごく当然の考えだと思うのだが、にもかかわらず偉そうに怒鳴りつける。自分たちがした、**無意味な輸血やフィブリノーゲン製剤の使用**について反省することもない。甚だしきは、血液センターに文句を言ったと自慢する。誰とは言いませんが。

これらの B 型、C 型、HIV については、ほぼ確実に感染をひきおこす。HTLV-I については、ウイルス・キャリアーになることは間違いないが、白血病や悪性リンパ腫を発症するかどうかは、現時点ではわからない。

SARS にしてもそうであるが、大量の集中発生があっても全員が発病したわけではないし、かの O-157 の食中毒にしても、かならずしも全員が発症したわけではない。この原因についてはよくわからない点があるのだが、一部の人の好きな「善玉菌・悪玉菌」でいえば、この「悪玉菌」が病原菌の増殖を抑えている可能性がある。……

それなら、悪玉ではなく、立派な善玉じゃないか！

上記、誰とは言いませんが、はよくでてくるのであるが、おわかりのように同じ人です。そんなあなた、いくらなんでも、そうそうは馬鹿はいません。

上のことを一言でまとめると、われわれの知っていることは、きわめて狭い範囲の、ごく一部にすぎないのであります。

2003. 8. 3.